SAMOA

サモアガイドブック

刊行にあたって

サモア独立国は西欧文明に染まることなく過去の伝統的文化と「サモア風」（Fa'a Samoa）の生活を持ち続けている国として、これまでの観光に飽き飽きしている観光客を魅了します。政府も観光開発に力を入れていますが、残念ながら日本からの訪問者数は未だにごく少数です。

本ガイドブックではサモア独立国に関する観光情報を出来るだけ詳しく取りまとめました。また、同国を広く理解していただくため、観光情報以外にも歴史、産業、社会等についても簡潔に紹介しています。

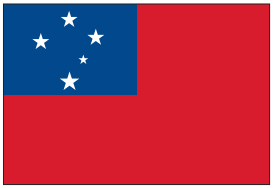
本ガイドブックが同国を訪問する際の参考となり、また同国についてさらに理解を深めていただくための一助となれば幸甚です。

2016年7月

国際機関　太平洋諸島センター

※国際機関 太平洋諸島センターは、ホームページ（http://www.pic.or.jp）でも情報を公開していますので、ご参照下さい。

サモア



正式国名	サモア独立国
面積	2,935平方キロメートル（東京都の約1.3倍）
人口	190,400人（2013年、世銀）
首都	アピア（Apia）
民族	サモア人（ポリネシア系）92.6%、欧州・ポリネシア系7%
主要言語	サモア語、英語（共に公用語）
宗教	キリスト教（100%）（組合教会派34.8%、カトリック19.6%、メソディスト15%）
政体	立憲君主制
1人当りGNI	3,970米ドル（2013年、世銀）
通貨	サモアン・タラ（Samoan Tala）（サモア・ドルとも言う）
電話の国番号	685＋（相手先番号）（市外局番はない）

目　次

サモア独立国の概要 …… 2
旅行者へのアドバイス …… 7
ウポル島と首都アピア …… 11
サバイイ島 …… 28
関係先リスト …… 36

国旗の由来

赤は勇気を、紺は自由を、５つの星は南十字星を表わす。

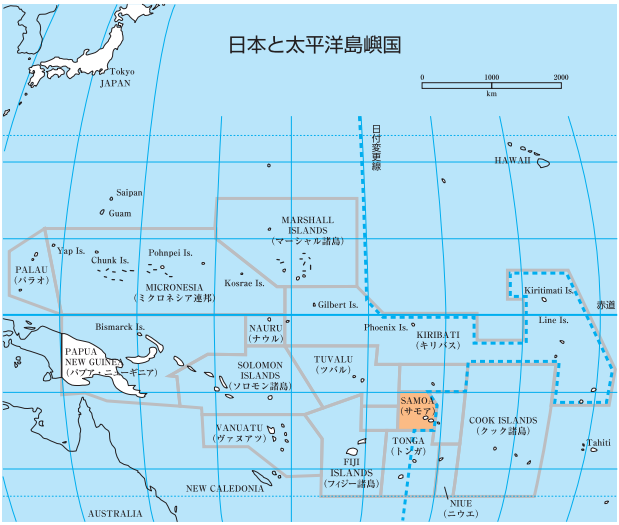
サモア独立国の概要

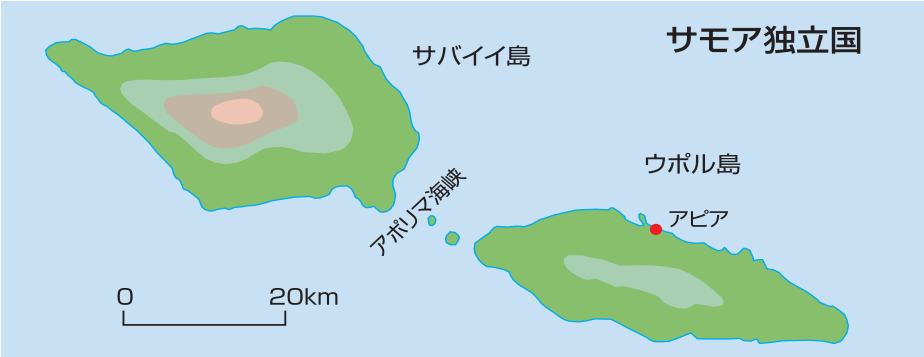
赤道の南 1,200km、南太平洋の中心に位置するサモア諸島は、日付変更線のすぐ近く西経 171 度線の両側にあり、その西側のサモア独立国（以下サモア）と東側のアメリカ合衆国領サモア（以下＝米領サモア）に分かれている。サモアは 1962 年の独立時には西サモア独立国と呼ばれていたが、1997 年に現在の国名に変更された。

サモアは、首都アピア（Apia）のあるウポル島（Upolu）と、その東海上 15km にあるサバイイ島（Savaii）の 2 つの大きな火山島で構成されている。その 100km 東にはツツイラ島を主島とする米領サモアがある。

両サモアは、その言語、伝統・習慣は同じであるが、人々の生活態度から受ける印象には大きな違いが感じられる。米領サモアは、公的部門へのドル投入、アメリカ資本による漁業開発の結果、完全に貨幣経済社会へ移行した。また、労働人口の 3 分の 1 は米国政府の関連施設で働いている。食生活も輸入された缶詰や冷凍食品が徐々に伝統的な食事のスタイルを変化させてきている。

一方、サモアは、素朴で伝統的なポリネシアの慣習を守って生活している代表的な国である。多くの南太平洋の国が外国からの影響を受けることで独自の伝統を維持することが困難になっているが、サモアは、自給自足経済への依存度が高く、本来の伝統を最も色濃く残している国とされている。





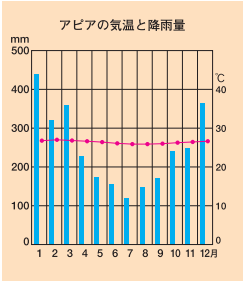
立 地

サモアは、ニュージーランドの北2,300km、ハワイの南3,700kmの南太平洋上に位置する広さ2,935km²（鳥取県より少し小さい）の島国である。東には米領サモアを挟んでクック諸島、南にトンガ王国、そして北にはニュージーランド領のトケラウ諸島が連なる。サモアは、主にサバイイ島（面積1,700km²）とウポル島（1,115km²）の2つの大きな島などで構成されている。大きな2島は18kmの海峡を挟んでいるが、その間には2つの小島、マノノ島（人口600人）とアポリマ島（人口150人）がある。サバイイ島とウポル島はともに火山島であり、サバイイ島にあるサモアの最高峰シリシリ山（Mt. Silisili）は標高が1,858mある。

気 候

1日の気温の変化は21℃～30℃で5月から10月までが乾季、11月から4月が雨季になる。最も雨が多いのは12月から2月である。

1月の雨量は平均で500mm弱にもなり、そのほとんどは夜に降る。1年を通して湿度が高いが、4月から10月は南東の貿易風によってかなり和らげられる。



歴 史

●先史時代

サモアの祖先がどこからやってきたかを明確に知ることはできないが、ウポル島には紀元前1000年頃に人々が生活していたとされている。また、サモアに残る伝説には、フィジーあるいはトンガとの深いつながりが感じられるようなものがある。紀元950年にはトンガ人がサバイイ島を支配していたとの言い伝えも残されている。

●西洋との接触

1722年オランダ人が現在の米領サモアの小島に近づきマヌーア島と命名したこと

が記録されている。1768年にはフランス人探検家がこの島に上陸し住民と接触した。次いで1787年に同じくフランス人が現在の米領サモアのツツイラ島に上陸した。1800年代前半には多くのヨーロッパ人がサモアに定住していたといわれている。

1828年にメソジスト派の宣教師が初めてサモアに上陸したが、その時点では既にキリスト教を受け入れる素地ができていた。その後はイギリスやイタリアのローマ、そしてアメリカから宣教師や伝道師がサモアの島々を訪れ布教を開始した。

また、1850年以降になると貿易を目的としたヨーロッパからの移住者も増加し、特にドイツは土地の購入や入植者の送り込みにも積極的であった。

● 3 国統治の時代

19 世紀後半には、サモアの伝統的な地位を有する 2 家系が東西に別れ、住民を巻き込んだ権力闘争を繰り返していた。この闘争にドイツと米・英両国の主導権争いが絡んで混乱が絶えなかった。さらにサモアは、米国に申し出ていた海軍基地の提供を英国とドイツにも提供することにしたため、混乱の収拾の目処が全く立たない状況となった。そして 1889 年、ベルリンにおいてドイツ・米国・英国の 3 国は、3 国が派遣する領事が、任命されたサモア人国王を補佐して統治を行うというベルリン条約を締結した。

しかしこの条約はまったく効果なく、東西に別れての権力闘争が続いたことから、1899 年 12 月に再び 3 国間条約が締結された。すなわち、サモア諸島の東部を米国、西部をドイツが統治し、これまでドイツが権利を出張していたニウエ、トンガ、ソロモン諸島からドイツが撤退することを条件に、英国はサモアの権利を放棄した。これ以降、サモア諸島は東西に分裂した歴史を歩むことになった。

ファレラライにあるキリスト教会

●西サモアとドイツの時代

1900 年 2 月、ドイツは、西サモアを統治するためにドイツ人知事を任命した。当初の数年間は比較的平穏が続いたが、植民地としての支配が強くなるに従ってサモア人の不満がつのり、また伝統を無視したドイツ人知事への反発もあって、これがレジスタンス運動へと発展していった。

1905 年にサバイイ島の火山噴火があり、西サモアの状況は一変することになった。噴火は 1910 年まで続き、その間レジスタンスによる反政府運動もあり、ドイツはサ

バイイ島から退去することになった。

●独立への道のり

1914 年、第 1 次世界大戦が勃発し、ドイツ敗戦により、ニュージーランドが西サモアに進駐した。

第 2 次世界大戦の勃発によって一時的に米軍が西サモアに進駐したが、1945 年にはニュージーランドの施政下で国際連合信託統治地域となった。

1947 年には、西サモアの地方自治体が集まり、ニュージーランドの支援を受ける形で議会を設置し、1954 年に憲法制定のための初議会が開かれた。

1961 年 1 月、独立に向けての要請を国連に行い、住民投票を経て、1962 年 1 月「西サモア独立国」の名称の下に独立。1997 年、国名を「サモア独立国」に変更した。

政 治

サモアは立憲君主国家であり、国家元首は事実上代表的な 4 部族の長の中から選ばれる。現在の国家元首はトゥイアトゥア・トゥプア・タマセセ・エフィ。国家元首に実質的な権力はなく、国事行為はすべて議会の承認によって行う。政府は、首相と 12 人の閣僚によって構成されている。

議会は 1 院制で49議席からなる。1990 年の国民投票によって、21 歳以上のすべての国民に選挙権が与えられたが、被選挙権は「マタイ」の称号を持つ者にしか認められていない。

サモア独立国の政治の特徴は地方自治の形態にあり、とくに村の単位では、現在でも一族の長を中心とした伝統的な運営がなされている。

経 済

ウポル島とサバイイ島、その周辺の小さな島々からなるサモアの経済活動は小規模で、ココナツやタロイモなどの伝統的農業に依存しており、90 年代半ばからの経済成長も漁業、農業、観光が大きく貢献した。現在、労働人口の 60% が従事している農業の GDP(国内総生産)に占める割合が徐々に減少しつつあり、2004 年には、ニュージーランド、豪州、米国に住むサモア人からの仕送りが GDP の 19.3%を占め、重要な国家収入になっている。民間企業としては最大企業であるヤザキ・サモアが最盛期には 2,000 人以上の現地人を雇用し、自動車用ワイヤー・ハーネスを生産しており、サモアの豪州への輸出の殆どを占めている。

社会と人々

サモアの人々は古い伝統に則した社会システムを守っている。そのシステムは厳格であるが、逆に人々は底抜けに陽気な様子を見せている。すべての村には、1 日の仕事を終えた人々が集まってくる広場がある。そこで彼らは、キリキティ（kirikiti）と呼ばれるサモアのクリケットやバレーボールを楽しむ。人々は歌を愛し、1 日中でも歌って飽きることを知らない。そして日曜日に

は教会に出かけ、賛美歌を歌う。富んでいる人は少ないが、貧しい人もいない。人々は友好的で、外国からの訪問者を暖かく迎える。

教会から家路につく人々

●サモアのダンスはフィアフィア（Fiafia）

一般的に知られているのは、木製の太鼓が作り出すリズムに乗って演じられる火とナイフを使う劇的で勇壮なダンスである。本来は村の行事として行われていたものが、現在では観光客向けに大きなホテルでディナーショーとして演じられ、人気が高い。

なお、ホテルなどのフィアフィアショーの日程は直前に変更されることがあり、宿泊客が少ない時などは取り消されることもあるので注意しよう。

サモアのダンス“フィアフィア”

●アヴァ（Ava）（一般にはカヴァ（Kava）と呼ばれる）の儀式

「カヴァの儀式」は、酋長会議や客人のもてなし、冠婚葬祭などの始まりに催される厳粛なセレモニーで、複雑な手順と作法がある。そのため、「南太平洋の茶道」とも言われ、サモアの他にフィジーやトンガなどにもある。

カヴァとはコショウ科の草木で、その根を乾燥させて細かく砕き、タノアと呼ばれる大きな木鉢の中で水と混ぜて作る飲み物で、薄茶色の濁り水のように見える。アルコール成分、カフェイン成分は全くなく、口に入れても舌先にピリッと感じる程度で、強い味はない。インスタントで作れるパウダーも売られており、また肝臓の妙薬としてドイツへも輸出されていたが、2000年に肝臓に悪影響があるとしてドイツ、英国、フランスが輸入を禁止、続いてEU、北米、日本も輸入を禁止した。その後、スコットランド・アバディーン大学とルクセンブルグ癌生物分子研究所により抗癌作用が確認され、国際カヴァ委員会では欧州の輸入解禁を求め、活動を始めている。

●音楽

サモア人の音楽好きはよく知られているが、同時に音楽に対する才能が豊かなことも事実である。楽器を弾く能力は、ポリネシアの人々の生まれつきの才能であるように思われる。

旅行者へのアドバイス

日本からのアクセス

日本からサモアに旅行する場合、一般的なルートとして、ニュージーランド航空を使ってニュージーランドのオークランド経由アピアに入るルートである。他にもフィジーのナンディから入るルートもある。

なお、詳しくは、航空会社、旅行代理店に問い合わせられたい。

パスポートとビザ

60 日以内の滞在なら、商用、観光を問わずビザは不要。ただし、帰りの航空券を所持していない場合は入国できない。滞在が許可される期間は、到着時に提出する入国カードの記載した日数になるので注意が必要。また、入国カードには滞在先を明記する必要があるので、ホテル名など正確に記載できるようにしておくこと。

パスポートは滞在日数＋６ヶ月以上の残存期間が必要。

税 関

アルコール類は１本以内、たばこは 200 本まで無税。生きている動物は持ち込めない。また、植物や肉類は許可が必要となる。

入・出国手続き

ターミナルビルの入国窓口で滞在日数と入国目的を聞かれるが、形式的なものであり簡単に済む。

入国時の必要書類は入国カードと税関申告書。２枚つづりになっており、入国審査時に税関申告書は戻されるので、税関検査時に係官に渡す。

出国税は航空券代に含まれている。

時 差

日本より４時間早い。日本が正午のとき、サモアは午後４時。

サマータイム（９月末～４月初め）まであり、サマータイム中は５時間早い。

通貨と両替

サモアの通貨はタラ（Samoan Tala）で、サモア・ドルともいう。紙幣は、2、5、10、20、50、100 タラの６種類、硬貨は 1、2、5、10、20、50 セネ（sene）と１タラがある。１タラは 100 セネ。

ホテルの支払いは米ドルなどで可能だが、一般的にはタラで支払う。市内にある豪州系の ANZ 銀行（オーストラリア・ニュージーランド銀行）、ウェストパック銀行およびサモア中央銀行の本支店で両替ができる。また、アピア市内にはサモア・ファイ

ナンス（Samoa Finance Co. Ltd.）およびウエスタン・ユニオン（Western Union Agency）の２つの両替所がある。空港でも両替が可能だが、到着が早朝や夜間の場合は営業していないので、到着時間を確認しておきたい。

ANZ 銀行とウェストパック銀行（アピア中心街に２箇所）の ATM では現金両替にクレジットカードが使える。現在為替レートは、１タラ＝ 40.34 円（2016 年６月現在）となっている。

クレジットカード

主要なホテルやレストラン、みやげ物店ではビザやマスターカード、アメックス、ダイナース、VISA が利用できる。

交通機関

●バス

ウポル島（アピア）、サバイイ島では、バスが住民の足となっている。トラックを改造したカラフルなバスは旅行者も利用できるが、バスの行き先（終点）の名前がバスの名前となっており、運転手にどのバスに乗ればよいか聞くこと。時間表、料金については、サモア観光局旅行案内所（Samoa Visitors Bureau）で入手できるが、午後は時間通りに運行されることは稀なので注意すること。

サモアのバスはカラフル

●レンタカー

サモアナ・レンタルス（Samoana Rentals）、ファンウェイ･レンタルス（Funway Rentals）、バジェット・カー・レンタルス（Budget Car Rentals）の３社がサービスを行っており、ドライブも楽しい。日本の国際免許証だけでは運転は出来ないので、ツーリスト専用の免許証を取得する必要がある。料金は 20 タラである。レンタカー会社でも手続きが出来る。（専用免許証の交付手続きの場所は、ウポル島（アピア）、サバイイ島の一般事情の項を参照。）レンタカーのほとんどは人身事故の保険付与はなく車両保険のみである。料金は、目安としてガソリン代別で、中型クラスの普通乗用車だと1日 150 ～ 200 タラ程度である。

●タクシー

メーター制ではなく、政府により料金が決められている。アピア市内であれば３～５タラ程度。料金表のコピーは、交通管制局（Transport Control Board）で、また主要な場所までの料金は、サモア観光局旅行案内所（Samoa Visitors Bureau）で分かる。利用する前には必ず運転手に料金を確認すること。ナンバープレートにＴの字があればタクシーである。

●フェリー

ウポル島とサバイイ島の間には、サモア・シッピング会社（Samoa Shipping Corporation）によるフェリーのサービスがある（1日3～4往復）。

通 信

●一般事情

国内電話・国際電話・携帯電話ともに、民間企業である Blue Sky Samoa および Digicel Samoa がサービスを提供している。公衆電話は存在しない。

●国内電話

ダイヤル桁数は5桁で、市外局番はない。固定電話の料金は、ウポル島内では、5セネ／分＋15%（消費税）、ウポル島外では、21 セネ／分＋15%である。なお、携帯電話にかけた場合は、1通話 32 セネ／分＋15%である。

●国際電話

直通ダイヤル方式。回線状態はあまり良くなく、日本へは夜間の方が状態は良い。

●携帯電話

携帯電話が普及しており、Blue Sky Samoa および Digicel Samoa がサービスを提供している。ほぼ国内全域をカバーしている。なお、携帯電話のダイヤル桁数は7桁。

●インターネット

インターネットカフェはアピア市内に数か所ある。サバイイ島では、サレロロガの Blue Bird Mole 内と Wharf ビルの2階の2か所ある。

電 気

240V、50Hz。プラグの型はO型でオーストラリアやニュージーランドと同じ「八」の字型の2ピンまたは3ピンプラグ。日本製品を使用する場合、変換用のアダプターが必要。

飲料水

首都アピアでは原則として水道水は飲めるが、旅行者には念のため市販のミネラル・ウォーターを飲むことをお勧めする。また、レストラン、ナイトクラブ、バーなどで使われる氷は、浄化した水を使っており一応安全と思われるが、心配なら事前にウェーターに聞くこと。

病 気

マラリアの心配はないが、たまにデング熱が発生する。デング熱は病原菌を持つ蚊に昼間に刺されることにより感染するので、熱帯地域用の防虫剤（ウェット・ティシュー・タイプ）などを用意すること。スプレーは持ち込めない。

チップ

日常生活でチップの習慣がないので、余程のことがない限りチップを出すことは好ましくないとされている。

服 装

1年を通じて薄手の夏服で過ごす。但し、夜間、寒くなるので薄手の上着を用意すると良い。ホテルやレストランではカジュアルなイブニング・ウェアーが適当である。

現地行動のエチケット

サモアでは、旅行者は温かく迎えられる。しかし、現地のしきたりもあり、海岸も含め村に入る時は、次のことに注意しよう。

・夜のお祈りの時間（午後6時～7時の間10分～20分程度）は外出を控えよう。通常、開始時と終了時にはベルやホラ貝で合図がある。
・日曜日には多くのアトラクションが行われるが、安息日でもあり、出来るだけ静かに、ゆっくりと行動しよう。
・トラブルを起こすことにもなりかねないので、肌もあらわな服装は避けよう。
・女性が教会に行く場合、ズボンや短パンを避け、ラバラバ（男女が腰に巻く衣類）を着用しよう。
・日曜日には殆どの店が閉店するので、必要なものは前日に揃えておこう。
・水泳や甲羅干しをする場合、ヌード姿やトップレス姿は厳禁。
・ファレ（サモアの伝統的な円形、楕円形の建物）に入る場合は、靴を脱ごう。
・ファレでは老人が座っている場合、決して立ったままにならないようにしよう。
・ファレで座る場合、足を他の人に向けないようにする。足を組んだり、ラバラバで隠すようにしよう。
・写真をとる場合、必ず事前に許可をとろう。
・ねだられても子供たちにお金をあげることはしないようにしよう。

情報収集のソース

●現地

サモア観光局

Samoa Tourism Authority
TEL 63500／20669

サモアの首都アピアのメインストリートにあり、伝統的なファレを現代風にアレンジした建物なのですぐ目につく。地図やパンフレットが入手でき、職員は質問に気軽に対応してくれる。

オフィスの営業時間は、平日が8時～16時30分、土曜日は正午まで。

右手の伝統的な屋根の建物が観光局

●日本

ニュージーランド航空

TEL 03-3287-6311

ウポル島と首都アピア

サモアの中心でサバイイ島に次ぐ面積をもつウポル島には、全人口の 85％を超える 115,000 人が生活している。ウポル島はホラ貝のような形をしており、東西が 72km、南北が 24km ほどで面積は 1,115 ｋ㎡、島の内部は未開の熱帯雨林に覆われており、中心には標高 1,116m の最高峰フィト山がある。緑に囲まれた島の中心部と変化に富んだ海岸線、ウポル島の人々は、そのほとんどが海岸沿いに住んで昔ながらの生活様式を守り通している。中央の山地にも村があるが、それは数えるほどしかない。

首都アピアはサモアの空の玄関口、ファレオロ国際空港から車で東に約 40 分、島の北部中央にある。人口は 32,000 人で、サモアで唯一の都会的な雰囲気を感じさせる街である。

アピアの一般事情

●道路と交通事情

ウポル島はアピアを中心に道路網が整備されている。空港から市内への交通機関は次のようなものがある。

・空港シャトルバス

ファレオロ国際空港から市内の主要ホテルへは、ピーアンドエフ・シャスター・ツアーズ（P&F Schuster Tours）のシャトルバスがある。（予約・問合せ 23014）

・バス

トラックを改造したカラフルなバスも利用できるが、海外からの航空便は早朝に到着することが多いので、空港シャトルバスかタクシーを利用することをお勧めする。バスを利用する場合は、荷物を持って通りまで出る。

なお、市内でバスを利用する場合、料金は安いが、運行時間が一定していないので、旅行者は戸惑うことが多い。とくにアピアから離れた場所へバスで出かける時は、帰りのバスを確保するのはかなり難しい。往復ともバスを利用するなら、早い時間に出かけて、昼過ぎにはアピアに戻るくらいの予定を立てることが、この島の観光の秘訣である。バスのターミナルは、フンガレイ（Fungalei）の食品市場の隣にある。

バスは住民の足

・タクシー

空港から市内まで片道 50 タラ程度だが、乗車する前に運転手に料金を確認すること。

なお、市内でタクシーを利用する場合、台数が多く料金も安いが、料金はすべて運転手との交渉で決まる。それだけに、観光などで利用する場合などは、ホテルやツアー会社の人に頼んで料金を交渉してもらうほうが安くなる。

・レンタカー

ツーリスト専用の免許証は、フリーマーケット（蚤の市）の向かい側の公共事業・交通・インフラ省（Ministry of Works, Transport & Infrastructure）のオフィスで取得する。料金は 20 タラ、レンタカー会社でも手続きが出来る。

●銀行と両替

ANZ 銀行、ウェストパック銀行、サモア中央銀行（Central Bank of Samoa）があり、平日の 9 時～ 15 時まで営業している。市内では、サモア・ファイナンス（Samoa Finance Co. Ltd.）およびウエスタン・ユニオン（Western Union Agency）の 2 つの両替所があり、また、空港、アギー・グレイ・ホテル、タノア・ツシタラ・ホテルにも両替サービスがある。

●郵便と通信

郵便局はビーチ・ロードの政府ビルの真向かいで、時計台のすぐ近くのサモアテル（Samoa Tel）ビルの中にあり、営業は平日の 8 時～ 16 時 30 分まで、電話とファックスのサービスも同じ建物で利用できる。

サモアの切手はカラフルで種類も多くお土産としても人気がある。

●緊急時

警察の緊急ダイヤルは 995、救急車は

999、消防は 994 となっている。

●日本の旅行会社

パシフィック・インターナショナル

Pacific International

TEL 23225 ／ FAX 21944

サモアの代表的な日系企業で、観光から貿易、事業の企画など、サモアに関するすべての相談に気軽に応じてくれる。営業時間は平日が 8 時～ 16 時 30 分、土曜日が 12 時までで、日曜日は定休日。

中心街を散策する

アピアの町は、アピア湾に沿って東西に走るビーチ・ロード（Beach Road）と、そこから南へのびるバエア・ストリートを中心に、半日で歩き回れるほどの広さである。

ビーチ・ロード

Beach Road

北側にアピア港が開けるメインストリートで、この通り沿いには観光局を始め銀行や郵便局、教会、みやげ物店、レストランなどが並んでいる。海側には政府庁舎や中央銀行がある。

海沿いを走るビーチ・ロード

フリー・マーケット

Flea Market

日本の「蚤の市」と同じ。主に衣料品や日用雑貨、手工芸品、装身具、化粧品などのマーケットで多くの人で賑わっている。マーケットの海寄りにはバスターミナルがある。フリー・マーケット（蚤の市）を東に行くと魚市場がある。日曜日の早朝は、ウム料理の材料を買いに来る客で混雑することが多い。

中央マーケット（フードマーケット）

Maketi Fou

フリー・マーケットからフガレイ通りを南に入っていくと、アピアの中央バスターミナルに隣接して中央市場がある。ここはアピアでもっとも人の集まる場所で、南国の野菜や果物、民芸品などが売られていて周囲には軽食の屋台もある。

カトリック大聖堂

Mulivai Catholic Church

ビーチ・ロードにあるこの大聖堂は 1885 年に建設が開始され 20 年間の歳月を要して完成した。7 階建ての政府庁舎が完成するまでは、20km 先の海から眺めることができるアピアのランドマークだった。

時計台

Clock Tower

ビーチ・ロードとバエア通りとが T 字になっている地点にはアピアの中心を示すかのような白い時計台があり、ロータリーとなっている。この時計台は第 1 次

白い時計台

世界大戦で死亡した軍人を記念して建てられたものである。ここから始まるバエア通りはアピアで一番交通量が多く、マクドナルドや中華レストランなどがあり、ビーチ・ロードに次いで観光客に人気の通りである。

政府庁舎

Government Building Complex

7階建ての政府庁舎は中国政府の援助によって1993年に完成した。屋上のファレはサモアの伝統を取り入れたものである。

屋上にファレのある政府庁舎

アピア近郊の見どころ

ムリヌウ半島

Mulinu'u Peninsula

アピアの西側に突き出たムリヌウ半島は、古い都の在った場所で、政治上の記念碑が多く見られる。アピアの街からビーチ・ロードを半島の方へ行くムリヌウ通りに入ると直ぐにタノア・ツシタラ・ホテルがある。そのまま 10 分ほどでイギリス・アメリカ記念碑があり、その先にドイツ記念碑がある。さらに少し歩くと独立記念碑と土地称号裁判所があり、その左手には丸屋根の国会議事堂がある。サモアの伝統建築様式であるファレを現代風にアレンジした建物で、屋根の下はガラス張りで中が見えるようになっている。半島の最先端には 1902 年にドイツ人によって建てられた気象台やタマセセ王や当時の王朝の大きな墓があり、その手前にはマエリトア・タヌマフィリⅠ世とその父であるラウペパ王の墓がある。

パロロ・ディープ

Palolo Deep

ムリヌウ半島からアピア港を挟んだ反対側にあるパロロ海岸から沖合いに 100m ほどの地点がパロロの深みと呼ばれる場所である。海岸からそこまでは満潮時でも大人の背丈ぐらいの深さしかないが、パロロ・ディープに到着すると突然 80m ほどのドロップ・オフとなる。海の保護区に指定されており、カラフルな魚が群れ泳ぐ、シュノーケリングには最高の場所である。保護区への入場は有料で、毎日 8 時～ 18 時まで開いている。また、シュノーケリングやマスク、フィンも有料で貸してくれる。

パパセーアの滑り岩

Papaseea Sliding Rock

アピアからバスで 20 分ほどにあるアピアっ子に人気の場所。なだらかな天然の滑り台で、岩の間をぬって滝壺に飛び下りる気分は実に爽快であり、子どもたちには絶

パパセーアの滑り岩

好の遊び場になっている。観光客も一度は試してみたいと多くが訪れる。水着を持参して、入り口で番をしている婦人に料金を支払って入る。

スティーブンソン博物館

Robert Louis Stevenson Museum

ビーチ・ロードからウポル島を横断するクロス・アイランド道路で南に 4km のところに「宝島」や「ジキル博士とハイド氏」の作者として知られる作家、ロバート・スティーブンソンの住居が博物館として残されている。彼はここで最後の 4 年間を過ごし、自然と人々の営みを書き残している。サモアを心から愛し、人生の最後の数年間をサモアの為に捧げたスティーブンソンは、今でもサモアの語り部（ツシタラ）と呼ばれて尊敬されている。

スティーブンソンの死後、この住居はその時々の為政者によって使用されたが、彼の没後 100 周年を記念して 1994 年に博物館としてオープンした。

邸内には南洋には必要ではないと思われる暖炉も残されている。これは故郷である英国の生活を偲んで作ったものなのであろう。

博物館まではアピア市外からタクシーまたはバスを利用する。開館時間は、月曜から金曜日の 9 時～ 15 時 30 分、土曜日の 8 時～ 12 時までとなっている。入館料は大人が 20 サモア・タラほど。ガイドツアーあり。

哀山バエア山にはスティーブンソンの墓がある。

スティーブンソン博物館

スティーブンソン邸の暖炉

ラノトオ湖

Lake Lanotoo

アピアからクロス・アイランド・ロードを利用して、バハイ教会を過ぎた右手にある黄緑色の火口湖で、野生の金魚が岸に集まることからゴールドフィッシュ・レイクとも呼ばれる。環境に配慮した観光開発を目指しているため、車を降りて 2km ほど山道を歩くが、是非とも訪れたい場所である。所要時間は片道 1 時間半程度。

ピウラ洞窟プール

Piula Cave Pool

アピアから東に 18km にあるピラウ・メソジスト大学の裏手にある真水のプール。海水とは自然の溶岩のブロックで仕切

られているだけで、その距離は 1m ほどでしかない。天然のプールにつながる洞窟は深くて暗く、ここで泳ぐと探険家になったような気分が味わえる。このプールから 2km ほど山に向かうと高さ 10m のファレファの滝がある。滝のスケールは小さいが姿が美しいことから写真撮影などで人気がある。

ウワファト自然保護地区

Uafato Conservation Area

ファガロア湾の東に位置するこの地域は、絵を見るように美しい村で、丘から海に張り出した雨林を含む一帯が保護地区に指定されている。また、伝統的な工芸品を彫る人々が多く住んでいることでも知られている。

パパパパイ - タイの滝

Papapapai-tai Falls

クロス・アイランド・ロードの峠を越えた地点にあるサモア最大の滝で、ジャングルの緑の中に落差 100m の水しぶきが白く映える。滝に近づくことはできないが、峠から展望することができる。

森の中を流れ落ちるパパパパイ・タイの滝

パラダイス・ビーチ

Paradise Beach

ウポル島の南側のレファガ村にあるサモアで最も有名なビーチで、すべての観光客が訪れるという。1952 年にゲーリー・クーパーが主演した『Return to Paradise』のロケ地となり世界的に有名になった。ヤシの並木と白い砂浜は当時の美しさをそのまま残しており、まさに楽園を想わせるビーチである。アピアからはツアーバスが出ている。入り口で入場料を支払う。

黒砂海岸

Black Sand Beach

アピアから東に 10km ほどのソロソロ村にある溶岩の溶けた黒砂の混じった海岸が有名だが、アピアからクロス・アイランド・ロードを抜けた南海岸にもアガノア黒砂海岸（Aganoa Black Sand Beach）がある。シュノーケリングやピクニックに人気がある。

アレイパタ

Aleipata

ウポル島の東端にある数キロにわたって広がる白いビーチとサンゴ礁の海は、サモアで、是非訪れたい場所である。アレイパタの沖合いには 4 つの小島が浮かんでおり、カヌーで渡ることができる。

美しいアレイパタの浜辺

オレププ国立公園

O Le Pupu-Pu'e National Park

「海岸から山頂まで」という名前のこの公園は、1978 年にできた自然環境の保護と研究、環境教育を目的としたサモア唯一の国立公園である。

公園は、1,158m のウポル島最高峰のフィト山からオレププ溶岩海岸までの 29 ㎢をカバーしている。

トスア・オーシャン・トレンチ

To Sua Ocean Trench

近年サモアの観光地としては一押しのウポル島南岸にある天然プール。知る人ぞ知る世界の秘境の絶景の一つ。木製の梯子を降りて（勇気のある人はジャンプして飛び込んで）、外洋とつながる水中の岩場の間を潜り抜けていくと、美しく神秘的な世界が広がるサモア版「青の洞窟」を目にすることができる。

トスア・オーシャン・トレンチ
（©David Kirkland）

なお入場料は 20 サモアタラ。

アクティビティ情報

●シュノーケリング

シュノーケリングに適した場所はサモアのどこにでも見つけることができる。最も手軽な場所はアピアから歩いて行けるパロロの深みだが、初心者の場合はウポルの西海岸のマノノ島やアポリマ島の周囲が安心してできる。ウポルの南海岸の沖に浮かぶ無人島、ヌウサフェ島にカヌーで渡れば、手付かずのサンゴ礁のビーチがある。

経験豊かなシュノーケラーには、ウポル島の東に浮かぶヌウテレ島（Nuutele Island）の周辺が面白い。しかし、波が荒かったり流れが早かったりするので注意が必要である。

●ダイビング

サモアは太平洋諸島の中ではダイビング・スポットに関する情報が少ない。それだけにダイビング・ショップの数も少ないが、いくつかの知られたサービスがある。

パシフィック・クエスト・ダイバーズ

Pacific Quest Divers

TEL 24728 ／ FAX 23914

アピアのアギー・グレイホテルの前とココナッツ･ビーチリゾートで営業している。

ダイブ・スポットは南海岸を基点にしている。初心者講習も行っている。

アクアサモア

Aqua Samoa
TEL 23805

ダイブ・サバイイ

Dive Savaii
TEL 596022

ル・ラグーン・ビーチ・リゾート

Le Lagoto Beach Resort
TEL 58189

●ゴルフ

アピアの郊外にロイヤル・サモア・カントリークラブとファレアタ・ゴルフ・クラブがある。18 ホールのコースはヤシに囲まれ、自然の地形を生かした変化に富んだ設計になっている。服装や靴は自由でクラブは貸してくれる。

ゴルフ場

●テニス

アピアの東の外れにアピア・パーク（Apia Park）がある。ここは総合グラウンドになっていて、サモアで一番人気のラグビー場から競馬場まである。テニスコートは 5 面あり、ビジターでも利用できる。

ホテル

全てのタイプのホテルがあり、予算に応じて選べる。白砂の浜辺に建つ伝統的なビーチ・ファレ（ヤシの葉で葺いた屋根の高床式の部屋）からデラックスなホテルまで利用可能である。

●デラックスホテル

Sheraton Samoa Aggie Grey's Hotel & Bungalows

P.O.Box67, Apia
TEL 22880 ／ FAX 23626
E-Mail aggiegreys@samoa.ws/aggiegreys@aggiegreys.ws
URL http://www.aggiegreys.com

2016 年に新装オープンした著名人が宿泊する伝説のホテル。水曜日には Old Fale レストランにてフィアフィアショーがある。土曜日のシーフードバイキング（Le Tamarina）は美味との評判。旅行会社が主催し定期観光バスを運行。また、空港へのバスも運行する。

ビーチロードに面しており買物にも便

シェラトン・サモア・アギー・グレイホテル&バンガローズ

アギー・グレイズ・ラグーン・ビーチ＆スパ

利。アピアを見下ろす部屋からの眺めは最高。各種の部屋があり、映画スターの名前のついたファレもある。

Aggie Grey's Lagoon, Beach Resort & Spa

TEL 45611 ／ FAX 45626
E-Mail resort@aggiegreysresort.com
URL http://www.aggiegreys.com

2005 年 7 月にオープンしたサモアで初めての本格的なリゾートホテル。客室は 150 室で全室バスタブつき。レストランの施設も充実、オーシャンアクテイビテイ及びスパ施設も充実しておりホテル宿泊客はジム及びサウナは無料で使用できる。

Coconuts Beach

TEL 24849 ／ FAX 20071
E-Mail reservations@coconuts.ws
URL http://www.coconutsbeachclub.com

クロスアイランド通りを南下した海沿いにあり、レストランはサモアー美味しいとの評判。部屋は、スタンダードの部屋からプライベートビーチ側のバンガロー、大きなバルコニーを持つ林のツリーハウスまで各種あるが、贅沢な作りは水

ココナッツ・ビーチ

上バンガローだ。土曜日はフィアフィアショーが開かれる。

Hotel Insel Fehmarn

TEL 23301 ／ FAX 22204
E-Mail insel@samoa.ws
URL http://www.inselfehmarnsamoa.com

市内から車で 5 分。小高い所にあるため海と星空がきれい。ドイツ系家族が経営する 3 階建てのホテルで、プール、テニスコート、レストラン等の施設が充実している。部屋は台所付き。庭はラグビー場大の芝生で、毎朝散歩する人が多い。ホテル目の前には有名なピザ屋ジョルダノスがある。

ホテル・インセル・フェーマン

Tanoa Tusitala Hotel

TEL 21122
E-Mail tusitala@tanoahotels.com
URL http://www.tanoatusitala.com

サモアを代表する伝統的なホテル。庭が広く、宴会場もサモア随一。ホテルの敷地内には伝統的なファレを見ることができる。ガーデンプールもあり、部屋もバスタブ完備。木曜日はフィアフィアショー（要予約）がある。

タノア・ツシタラ・ホテルのプール

Sa Moana Resort

TEL 71460 ／ FAX 71460
E-Mail samoana@samoanaresort.com
URL http://www.samoanaresort.com

オーストラリア人が経営するホテル。サーファーが喜ぶビーチがあり、客室が少ないため予約が困難。村の入口で５タラを支払う。村の入り口からホテル入口までの道路事情はよい。ホテルの料金は素泊まりの金額で、食事は別料金となる。夕食のメニューも豊富でデラックス感あり。遠浅のビーチはなく、シュノーケリングには不向き。部屋には冷蔵庫、シャワー、トイレが完備されておりベッドタイプ。金曜日はフィアフィアショーがある。

Sinalei Reef Resort

TEL 25191 ／ FAX 20285
E-Mail sinalei@lesamoa.net
URL http://www.sinalei.com

クロスアイランド通りを南下、玄関前にはミニゴルフコースがある。海沿いのイタリアン料理は本格的。水曜日のフィアフィアショーが有名。マリーン施設も整っており、使用料は客室料金に含まれている。フィッシングボートも完備しているので魚釣りも可能。近くの海は珊瑚礁に近いためシュノーケリングに最適。

シナレイ・リーフ・リゾート

●スタンダードホテル

Apia Central Hotel

TEL 20782 ／ FAX 26206
E-Mail info@apiacentralhotel.com
URL http://www.samoahotels.ws/apiacentral.htm

市内中心にあり買い物に便利。道路をはさんで向かいに有名なタイ料理店あり。

Samoan Outrigger Hotel

TEL 20042 ／ FAX 20042

E-Mail outrigger@samoa.ws

URL http://www.outrigger.netfirms.com/

ビーチロードからクロスアイランド通りを北上して車で5分、右側にこぎれいな小さな宿が見える。自炊設備のほか、裏手にはプール、ファレの施設もある。2004年に改装したばかりでロビーも落ちた着いた雰囲気。

Hotel Millenia

TEL 28284 ／ FAX 28285

E-Mail info@hotelmilleniasamoa.com

URL http://www.hotelmilleniasamoa.com

ソギポイント、半島の中間にある海の眺めがすばらしいホテル。アピア湾の日の出を部屋から眺めることができる。アピア市内へも徒歩で 10 分。カレー料理が美味で安い。

ホテル・ミレニア

Pasefika Inn

TEL 20971 ／ FAX 23303

E-Mail info@pasefikainn.ws/Pasefikainn@samoa.ws

URL http://www.pasefikainn.ws

市内から徒歩 7 ～ 8 分。主人の人柄とスタッフの笑顔が魅力的。日曜日のランチタイム 12：30 からのウム料理は格別の美味。料金は朝食込みの料金で、毎朝トースト、果物、パンケーキが出される。共同炊事用の台所があり、ホテルのスタッフが手伝ってくれる。

パセフィカ・イン

Salani Surf Resort

TEL 41069 ／ FAX 41069

E-Mail salanisurf@samoa.ws

URL http://www.surfsamoa.com

ソパンガ滝への分岐点を右折したところにある。バンガロー形式で 8 室。サーファーがよく利用する。予約もアメリカ、ニュージランド、オーストラリアのサーファー専門会社を優先する。

Treasure Garden

TEL 22586 ／ FAX 30604

E-Mail info@treasuregarden.ws

URL http://www.treasuregarden.ws

市内 Savalalo にあるホテル。一階は中華レストラン。

Hotel Elisa

TEL.22111 ／ FAX.20536

E-Mail contact@hotelelisa.ws

2004 年 12 月開業。ソギ（Sogi）地区にあり、海に面したホテル。1 階はレストランとバーで客室は 2・3 階。全室シャワー、冷蔵庫、テレビ、クイーンサイズベッドがある。バルコニーから見る海の眺めは格別。スタンダード、シュペリアのカテゴリーにそれぞれマウンテンビュー、シービューがある。全 22 室。

ホテル・エリサ

●ファレ

サモアらしい体験として伝統的家屋であるファレの宿泊をお勧めする。ファレにもいろいろな形態があり、観光客が宿泊するファレの殆どがビーチに面している。料金形態はファレによって様々で、1 泊 3 食、1 泊 2 食、素泊まり等の料金区別がある。レストランの設備があり、宿泊客以外の食事のみの客も受け入れる施設は、素泊まりの料金形態となる。但し、注意しなければならないことは、ファレの施設が少ないこともあり、グループで宿泊の場合、日本の宿泊施設のように各人均一な部屋が割り当てられることは難しい。シャワーのお湯は期待できず、またトイレ、シャワーも共同利用となる。蚊帳、マットレスが提供される。なお、ホテル料金には 12.5%の消費税がかかる。

浜辺のファレ

Boomerang Creek

TEL 40358

E-Mail boomerang@samoa.ws

URL http://www.boomerangcreek.ws

オーストラリア人（Ana & Steve Harrison）が経営するファレ。近くに滝と泉がある。レストランはシーフードを中心にメニューも豊富で、漁師のため刺身メニューもある。11 室あるファレの前には、シュノーケリングに最適なビーチが広がる。ビーチ沿いにあるサンゴの間を泳ぐと魚の群に出会え、初心者でも簡単にシュノーケリングを楽しめる。料金には朝食が含まれている。土曜日はスタッフによるフィアフィアショーがある。

Taufua Beach Fales

TEL 41051 ／ FAX 25467

E-Mail taufuabeach@lesamoa.net

サモアで一番美しいといわれるラロマヌビーチで最大のファレ。13 室のファレと 50 人収容可能な食堂がある。食堂の海辺のデッキからの眺めは最高。レストランでの夕食はメニューも豊富で国際色豊か。土曜日はスタッフによるフィアフィアショーがある。マリーン道具も完備されている。

Litia Sini Beach Resort

TEL 41050 ／ FAX 41050

E-Mail litiasinibeachresort@yahoo.com.au

URL http://www.litiasinibeach.ws/

路線バスでラロマヌビーチに入り、最初に左に見えるファレ。16 棟のクローズドファレと 2 つのオープンファレから成る青色のファレ。目の前は珊瑚礁でシュノーケリングには絶好の場所。昼食はサンドイッチや果物程度だが、夜は種類も多くボリューム感あり。夕食のメニューもベジテリアンかどうかを質問する親切なファレで欧米人が多い。家族的な雰囲気でトイレは道路を挟んで男子、女子 2 ケ所、シャワーは 5 つある。

Maninoa Beach Fale

TEL 29162

ココナツビーチとシナレイリーフリゾートホテルとの間にあるファレで夜はお互いの施設を利用できる。特に水曜日はシナレイリーフのフィアフィアショーを眺めることができ、シナレイリーフのマリーン施設も有料で利用できる。ビーチからの星の眺めはすばらしい。2 階建てのファレもあり大人数向き。

Albatross Island

TEL 40375

E-Mail Albatrossfale@yahoo.com

アピア市内から車で 20 分、東海岸沿いにある目立たないファレ。ここは宿泊に加えてファレが作るタイ料理が有名。安くて景色がよく日帰り利用も多い。

Vavau Beach Fale

TEL 41306

ドイツ人が経営する 6 室のバンガロー形式のファレ。海辺はレオナルド・ディカプリオの映画「ザ・ビーチ」を思わせる岩間のビーチ。海の水はきれいだがサンゴ礁が近いため波が荒くシュノーケリングには不向き。施設内はスポーツも充実している。室内は 4 人収容でベッド 3 つ、トイレ、シャワー、簡単な台所、冷蔵庫が完備、食事の質もよい。食事は部屋代とは別にレストランで支払う。土曜日は地元の人達によるフィアフィアショーがある。

Virgin Cove Resort

TEL 75000

E-Mail info@virgin-cove.ws

URL http://www.virgin-cove.ws

スウェーデン人が経営。アピア市内観光局からシャトルバスが 1 日 1 便アピア発 14:30（現地発 09:15）が出ている。

個人の車で行くときは入口で入村料金５タラを支払い悪路を走行。最近は隣村で車を降りて海岸を歩いてファレに向かうようになっている。土曜日に浜辺で行われるスタッフ勢揃いのフィアフィアショーは迫力満点。星空がきれいで夕食も充実、魚と肉の選択及び別料金で前菜（刺身）のチョイスも可能。プライベートビーチは岩、石が多く、シュノーケリングには不向き。

バージン・コープ・リゾートのファレ

レストラン

サモアのレストランのほとんどは、日曜定休（一部土曜日も）。

サモアではグループで利用できるレストランが限られている。レストランの規模も小さいため早めの予約とメニューの指定が必要になる。また、郊外に出かけるとレストランはほとんどない状況で、食事できる場所も大きなファレ、又はレストランに限られる。

Tamarind Restaurant

TEL 21122

タノア・ツシタラ・ホテル内のレストラン。

タマリンド・レストラン

Sails Restaurant / Bar

TEL 20628

ビーチ・ロード沿いにある有名なレストラン。２階のコロニアル風テラス席から見下ろすアピア湾の景色は最高。メニューは刺身定食からインドネシア料理まで幅広くそろっている。

Rainforest Beach Road

TEL 25736

ビーチロードに面したレストラン。植物をふんだんに使った店の作りが特徴。メニューは卵料理からスパゲッティまで豊富。朝食、昼食、夕食のサービスがある。土・日定休。

Le Tamarina Restaurant

TEL 22880

アギーグレイホテル内にある一流レストラン。土曜日の夕食は海鮮料理のビュッフェ。

Habour Side Restaurant

TEL 21010

町のシンボル的なビル（EPC 電力会社）の２階にある。レストランから見るアピア湾の眺めは最高。ここの名物はシーフードスープとガーリックトースト。料金も安く、店の雰囲気もよい。

Italiano's Pizzeria

TEL 24330

ビーチロード沿いにあるピザ屋。サイズはＳ・Ｍ・Ｌの３種類。Ｍサイズとコーラの組み合わせが一般的だが、Ｓサイズをいくつかのメニューで分けることも可能。Ｌサイズは食べきれないほど大きいので要注意。余ったらテイクアウトもできる。

Treasure Garden

TEL 22586

Savalalo 地区にある中華レストラン。一見、日本のパチンコ店を思わせる豪華な作り。個人用の円卓テーブルの他に個室宴会場もある。２階はホテルになっている。

Sunrise Restaurant

TEL 24056

市内から徒歩で７～８分。店内はちょっと暗い感じの雰囲気だが味は抜群。スパイシーチキンは特に美味。炒飯やスープは一人では食べ切れないほどボリューム満点。個人で行くより何人かのグループで行くことをおすすめする。

Bistro Tatau

TEL 22727

URL http://www.bistrotatau.ws/

フリーマーケットの前にあるオーストラリア人経営のレストラン。従来は夕食のみのサービスだったが、最近は昼食メニューもある。少ないテーブル数で最高のサービスを提供してくれる。ワインの種類も多い。客席から見えるオープンキッチンが好評。

Apia Yacht Club Inc

TEL 21313

Sogi の半島を直進、国会議事堂を過ぎて右側にヨットが浮かんでいるのが見える。晴れている時は海辺のデッキでの食事がお勧め。海辺でのBarの雰囲気も抜群。メニューも豊富で、お勧めは貝のガーリック焼きとポテトフライ。飲み物は注文の度に支払うシステム。ヨットを扱う上品な客が多く、静かな雰囲気を求める人にはお勧め。雰囲気の割りに料金は低価格。

Giordano's Pizzeria

TEL 25985

サモアでは珍しく日曜日も営業している。ホテルインセルファーマンの対面にあり、フードマーケットからの路線バス（Motootua）が国立病院を経由し、店の前で止まる。本格的な焼きたてピザや、きちんとアルデンテで茹でられたパスタを堪能できる。ワインの種類も豊富。従業員のサービスもすばらしく、サモア随一のイタリアン・レストラン。値段もリー

ジェルダーノ・ピッツァリア

ズナブル。日曜日は要予約。月曜定休。

Paddles

TEL 21819

アピア湾を見下ろすロケーションにあり、ビーチロード沿い。1 階はインターネットカフェ。レストランは 2 階にあり、2 階のテラスハウスからの眺めは最高。ニュージランドステーキが主流のレストラン。バーで出すアルコール類の種類も多い。バンドの演奏も一流。金曜日は混み合うので特に予約が必要。

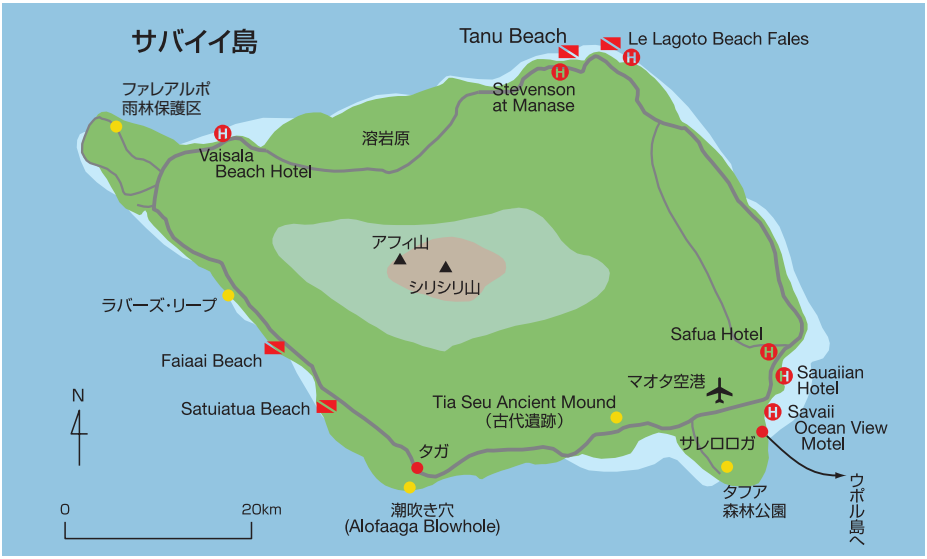
Roko's Restraunt

TEL 20992

アピア湾から山の方へ向い、国立病院の手前にあるレストラン。店内にはテーブル席が 10 席前後、木造の壁のこぢんまりとしたきれいなレストラン。周囲は木々に覆われ静かな雰囲気。テラス席もあり、日中は眼下に森林を覗け、夜は満天の星を眺めることができる。前菜に寿司や刺身も用意でき、シーフードから肉料理までメニューも豊富。おすすめはサーロインステーキと日替わりスープ。いろいろなメニューを注文して仲間とシェアするのも楽しい。席が少なく人気もあるため要予約。

ロコズレストラン

サバイイ島



サバイイ島はサモア諸島最大の島であり、ニュージーランド、ハワイを除くポリネシア最大の島でもある。ウポル島から 18km の海峡を挟んだ西に位置し、島の内部は手付かずの原生林があり、活発な火山活動で流出した溶岩原が広がる。それだけに伝統的な生活様式が現在に引き継がれており、島を訪れる人々に深い印象を与えずにはおかない。

サバイイ島は面積 1,700 k㎡で人口は約 50,000 人、ウポル島に比べて高い山が多く、海岸の起伏も激しい。島は東西に火山が連なっており、最高峰は標高 1,858m のシリシリ山（Mt.Silisili）で、ほかに 1,000m 級の山が 5 峰ある。島の北側には比較的新しい溶岩原があるが、これは 1760 年にアフィ山（Mt.Afi）が噴火したもので、東側のは 1905 年から 11 年にかけてのマタバヌ山（Mt.Matavanu）の噴火によるものである。

サバイイ島

サバイイ島の一般事情

●ウポル島からの交通

・空路

アピア郊外のファガリイ空港（Fagalili）とサバイイ島の東側のマオタ空港（Maota）間をポリネシア航空が毎日３便運航しており、飛行時間は 30 分ほど。ほかにサバイイ島の西側にあるアサウ空港（Asau）にも１日１便運航している。

・海路

ウポル島のファレオロ（Faleolo Wharf）とサバイイ島のサレロロガ（Sale-lologa Wharf）の間をサモア・シッピング会社（Samoa Shipping Corporation）のフェリーが１日３～４便往復運航している。月、水、木、金、土の各曜日は午前６時から午後４時の間、２時間おきに、火曜日は午前 10 時と午後２時、日曜日は午前 10 時に運航する。所要時間は１時間から１時間 30 分。欠航もあるので切符を買う際には確認が必要。

なお、市内のバス・ターミナルは、サレロロガ（Salelologa）の市場にある。

サバイイ島の見どころ

サレロロガ

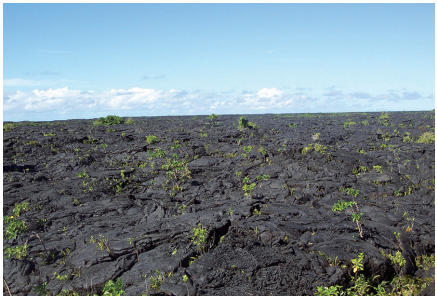
Salelologa

フェリーの着く埠頭から 10 分ほどのところにあるサバイイ島の中心の町。マーケットや商店、サモア銀行の支店があるが、アピアとは比べものにならないほど小さい。この町の北 5km には、1830 年に争いの絶えなかったサバイイ島に平和をもたらしたキリスト教伝道師ジョン・ウイリアムズの上陸記念碑が建っている。

メイン・ノース・コースト・ロード

Main North Coast Road

サレロロガから北に向かって 18km にあるプアプア村（Puapua）までは、素晴らしいビーチが続いている。さらに北に行くと海岸は荒々しい姿を表し、溶岩原が海にせり出している。溶岩原の南にある村がサマラエウル村で西がマウガ村である。そして、その先 4km ほどにあるサレアウラ村まで溶岩原が広がっている。この溶岩原の外れに「処女の墓（Virgin's Grave）」がある。村々が溶岩に飲み込まれ、教会の建物も破壊されたにもかかわらず、熱心な修道女たちが埋葬されている墓だけはそのまま残ったことから、土地の人はキリストの奇跡として語り伝えている。



溶岩原

ファガマロ村

Fagamalo

溶岩原を抜けると、ウインド・サーフィ

ンのスポットとして知られるビーチがある。ファガマロからサシーナ（Sasina）まで、数キロに渡って美しい浜辺が続き、ハネムーンでよく利用されるル・ラゴト・ビーチ・リゾートもここにある。さらにその先のマナセ村（Manase）には料金が安いことで知られているタヌ・ビーチ・ファレ（Tanu Beach Fales）がある。

メイン・サウス・コースト・ロード
Main South Coast Road

サレロロガから西に向かうとタフア半島があり、タフア雨林保護区になっている。この地区は、サモアでもっとも簡単に入っていける場所にあり、半島の先端は溶岩海岸になっている。海岸はピクニックエリアになっており、泳ぐことはできるが流れが早いことで知られている。半島を過ぎるとパラウリ村（Palauli）に出る。ここから古代遺跡ストーン・ピラミッドが発見された。

メイン・サウス・コースト・ロードは、サレロロガからサバイイ島の西の山裾をまわってアサウ村まで約 80km、北回りでもほぼ同じ距離である。

アロファアガの潮吹き穴
Aloffaaga Blowholes

島の南側ほぼ中央にあるタガの海岸で見られる、サモアで最も印象的であり世界的に知られている自然現象である。黒い溶岩で被われた海岸の、波に侵食された穴に打ち寄せる大波が、岩の隙間から空に向かって数 10m の豪快な水柱を立てる。

アロファアガの潮吹き穴

ストーン・ピラミッド
Stone Pyramid [=Tia Seu Ancient Mound]

ポリネシア最大の 9 世紀頃の建造物で、縦 50m、横 61m、高さ 12m の巨大な石造りの台形で、宗教的儀式に使われたらしいが真相は解明されていない。さらに、ジャングルの中にあり、人目につき難い場所であることも謎を深めている。

ラバーズ・リープ
Lovers Leap

「恋人たちの跳躍」と呼ばれる断崖絶壁は、潮吹き穴から北西に向かって 26km ほどにあり、眼下に広がる美しい海に吸い込まれそうな錯覚に襲われる。名前の由来は、ツツイラ島（米領サモア）から来た女性がこの村の男を愛したが、男が死んだ後に村人からひどい仕打ちを受け、

耐え切れなくなった女が娘を抱いてこの絶壁から飛び込んだ、という伝説によるものだ。そして伝説は、その２人はカメとサメになって、この海に戻ってきたと云う。サモアにはカメとサメにまつわる伝説がいくつもあって、そのひとつが「ラバーズ・リープ」なのだろう。日本の観光案内書には「恋人岬」となっているものもある。

ムリヌウ岬

Cape Mulinu'u

サバイイ島の最西端にある岬。この岬のあるファレアルポ半島には多くの伝説が残されており、その一つが「モソの足跡」（Moso's Footprint）であり、また「岩の家」（House of Rock）である。「モソの足跡」伝説は、フィジーから大男の軍神がやって来たときに付いたと云うものであり、フィジーのビチレブ島にも同じような足跡があると云う。

アサウ村～バイサラ村～パパ村

Asau-Vaisala-Papa

約 20km に渡る溶岩原を超えて来る北回りと南回りのメイン・ロードが、ほぼ同じ距離で合流するのがサバイイ島の第２空港のあるアサウ村である。この空港は 1990 年の台風で破壊されたがその後再建されている。アサウのすぐ西には、湖のように見える美しいバイサラ湾がある。さらに海沿いに本道を出たところには箱庭を見るようなパパ村がある。

ファレアルポ雨林保護区

Falealupo Rainforest Preserve & Canopy Walkway

サバイイ島北西端に広がる熱帯雨林の保護区。同保護区内には、２本のバンヤン樹の巨木をつないで作られた 30 メートルにわたる吊り橋状の空中遊歩道が設置されている。地上 40 メートルの高さから見る眼下に広がる熱帯雨林をみるその景色は、まさに絶景。

ファレアルポ雨林保護区

ホテル

●スタンダードホテル

Jetover Motel

TEL 51565 ／ FAX 51363

E-Mail bbl@lesamoa.net

サレロロガの町のショッピングモールの２階にある。サバイイ島では新しいモーテル。バスターミナルにも近く便利。全

室冷蔵庫、エアコン、台所が備え付けられている。

Le Lagoto Beach Resort

TEL 58189 ／ FAX 58249

E-Mail lelagoto@samoa.ws

マナセ海岸ビーチファレの手前、Fagamalo 村にある。2 階建てデラックスバンガロー形式のホテル。部屋にはホットシャワー、ファン、テレビ、冷蔵庫、電話が備え付けられている。このホテルのレストランとテラスレストランからの眺めは最高。

レラゴト・ビーチ・リゾート

Stevenson at Manase

TEL 58219 ／ FAX 58219

E-Mail stevensonmanase@lesamoa.net

マナセ海岸の道路を挟んだ真向かいにあるホテル。ホテル、ビラ、ファレ 3 つの部屋タイプがある。レストランやバーもすばらしく、金曜日と土曜日にはフィアフィアショーがある。宿泊客はホテル所有のアウトリガーにも乗ることができる。

Vaisala Hotel

TEL 58016 ／ FAX 58017

E-Mail vaisalahotel@samoa.ws

このホテルのバーテラスから眺める海はサバイイー。海も遠浅で水泳、シュノーケリングに最適。サーファーにも人気がある。地球最後のサンセットポイントはホテルから近い。

バイサラ・ホテルのバーテラスから臨む太平洋

ファレ

Vacations Beach Fale

TEL 54024 ／ FAX 54024

E-Mail leota@samcom.com.ws

サバイイ島ビーチの景勝地、マナセ海岸にある大規模なファレ。隣のファレにはダイビングショップも充実。このファレでの夕食、朝食は海に面したレストランで気分は最高。人の良い主人がお客様への挨拶に回る。日曜日のブランチは豪華、トーナイ（ウム料理）が自慢。干潮時にはサンゴの近くまで徒歩遊泳でき、大きな魚も見ることができる。

Tanu Beach Fale

TEL 54050 ／ FAX 54050

マナセ海岸のビーチファレの 1 つ。予算の限られている旅行者に向いている。シャワーとトイレは共同で、食事もゲスト皆と一緒に食べる。ファレの数は 30 と規模も大きい。ファミリーで経営してお

りリピーターが多い。ファレ所有のアウトリガーに乗ることもできる。土曜日にはフィアフィアショーが行われる。フィアフィアショーは 30 人ものスタッフ及び家族が工夫をこらして楽しませてくれる。サモアの大家族を思わせるファレ。港からは Tanu Beach Fale バスで 3 タラ。

Siufaga Beach Resort

TEL 53518 ／ FAX 53535
E-Mail siufaga@lesamoa.net

サレロロガの港からバス、車で 15 分。サバイイ島で一番大きな病院を過ぎると左側に広大な庭もったリゾートが見えてくる。イタリア人経営のリゾートでビーチから道路を挟んだ庭に部屋が 12 軒立ち並ぶ。部屋のタイプはスタンダード 6 室（ベッド 4 個）スーペリアー 4 室（ベッド 3 個）デラックス 2 室（ベッド 3 個）からなり、部屋にはトイレ、冷蔵庫、シャワーが完備されている。このリゾートにはサバイイで有名なレストラン「PARENZO'S」があり、イタリアンパスタの他に肉、魚料理がある。港からは Pua Pua バスで 1.50 タラ。

Aganoa Beach Fales

TEL 50163 ／ FAX 50163

マオタ空港及びサレロロガ港から車で 15 分、サバイイ島の南にあるビーチファレ。知る人ぞ知る隠れ家的な存在。男女トイレ、シャワーも完備、海辺に面した 9 つのビーチファレがある。この近辺の海はサバイイ島でもサーフィンのできる波としても有名。近くの森は原生熱帯雨林の生い茂る保存地区。

レストラン

Caftarelli Parenzo's

TEL 53518

サバイイ島の中でも最も清潔で室内装飾も美しい海辺のレストラン。朝食、昼食、夕食のサービスがある。Siufaga Beach Resort のイタリア人が経営しており、本格的なパスタをメニューに揃えている。パスタ料理の他に、肉や魚のメニューもある。道路を挟んでココナツ並木の白浜ビーチが続いており、室内の席でもテラス席でも最高の景色が味わえる。Bar も完備している。

●マノノ島

Vaotuua Beach Fale

TEL 46077

ウポル島、Manono-uta の港からフェリーで 20 分、船着き場にあるファレ。干潮時にはフェリーが桟橋につけられないため浅い海を歩くこともある。ファレは海の上にできており満潮時にはファレの階段を下りてそのまま海に入ることができる。ファレからは真夜中空港発着の飛行機を見ることもできる。島 1 周は 2 時間程で回れ、犬、車もなく、まさに環境を重視した島。ファレの主人は漁師で、時によっては新鮮な刺身を夕食時に出すこともある。

マノノ島

●ナムア島

Namua Beach Fale

TEL 20566

E-Mail namuaisland@hotomail.com

アレイパタ海岸リゾートが管理。ウポル島からはナムア島のフェリーで移動 5 分、浅瀬のきれいな波間にカラフルな魚を見ることができる。何匹もの慣れた犬の出迎えを受け、海辺のファレへ。食事は食堂で会食、客が釣った魚をその場で料理してくれる。島から見る満点の星は圧巻。晴れている場合は遠くアメリカンサモアを見ることができる。バードウォッチングにも事欠かない。朝早く起きて島の頂上に登ったり、午前中かけて島の周りを 1 周するのも興味深い。また、朝早くカヤックで隣のファヌアタプ島に渡り、日の出を拝むこともできる。宿の女主人は活動的で夕食時にサモアの話やカヴァの儀式の話しをしてくれる。

ナムア島

ミニコラム

サモア式伝統家屋・ファレ

首都アピアから少し離れると「ファレ」と呼ばれるサモア式の伝統家屋である「壁のない家」が目立つ。ファレはサモアでは家を総称しての言葉であるが、村の人々はこうした壁のない家で生活している。ファレは目的別に用途が決まっており、料理をするファレ、寝泊りをするファレ、会議を開くファレなど大小さまざまなファレがある。ファレに共通していることは、柱と屋根だけで壁がないということである。風雨の時にはヤシの葉製のブラインドを降ろして凌ぐ。

また海岸線の村々には、ゲスト用のファレ（ビーチファレ）が建てられている。村人と一緒に過ごし、ビーチで海水浴をし、夜は星を眺めながら床につく滞在は、ホームステイ感覚を味わえる。ただし、シャワーはタンクから引いた水で、トイレは使い勝手が大きく異なるなど、使用の際はそれなりの覚悟が必要であろう。20以上の村々にこうしたビーチファレがあるので詳しくはアピアにあるサモア観光局に問い合わせたい。

白砂とヤシの木に囲まれた村のファレは自然に溶け込んでおり、南太平洋でもサモアだけに残る伝統文化の一つである。

アピア市内の政府機関が並ぶ一角にも赤い屋根が印象的なファレを目にすることができる。

白い砂浜に並ぶビーチファレ。典型的なサモアの風景である。

関係先リスト

大使館・領事館

●駐日サモア独立国大使館

〒 104-0042
東京都中央区入船 2-7-4
政光ビル 3F
TEL (03) 6228-3692
FAX (03) 6228-3693

●在サモア日本国大使館

Embassy of Japan
S.N.P.F. Plaza B, 2F, Savalalo,
Apia, Independent State of Samoa
PO Box 1375
TEL +685-21187
FAX +685-21196

貿易・投資コンタクト先

● Ministry of Foreign Affairs & Trade
Government of Samoa
Level 3, FMFM11 Building,
P.O.Box 1859, Apia, SAMOA
TEL +685-21171 ／ 25313
FAX +685-21504

● Ministry of Commerce, Industry & Labour
Government of Samoa
P.O.Box 862, Apia, SAMOA
TEL +685-20471
FAX +685-21312
E-Mail mpal@mcil.gov.ws

観光コンタクト先

● Samoa Tourism Authority
P.O.Box 2272, Apia, SAMOA
TEL +685-63500 ／ 20669
FAX +685-20886
E-Mail info@visitsamoa.ws
URL http://www.visitsamoa.ws

写真並びに記事に御協力頂いた方々（順不同・敬称略）

Samoa Tourism Authority
South Pacific Tourism Organisation
SAMOA SCENIC TOURS AND INBOUND SERVICES
パシフィックインターナショナル株式会社

PICの著作物に関しては、無断での複写・複製・転載はお断りしています。
さらに、転売・出品も禁止とさせていただきます。

サモア

発行日：2006年3月31日　初版第1刷発行
2009年9月30日　第2刷発行
2011年1月31日　第3刷発行
2016年7月15日　第4刷発行

発　行：国際機関　太平洋諸島センター
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-22-14
明治大学　紫紺館1階
電　話：03-5259-8419　FAX：03-5259-8429

Printed in Japan

SAMOA

国際機関
太平洋諸島センター
International Organisation Pacific Islands Centre (PIC)

〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-22-14　明治大学　紫紺館1階
Tel: 03-5259-8419／Fax: 03-5259-8429
https://www.pic.or.jp　E-mail: info@pic.or.jp

表紙写真：サモア独立国
写真提供: South Pacific Tourism Organisation (©SPTO)